

Kobayashi Noboru



ごあいさつ

2012
Child Science
Exchange Program
in East Asia

Kobayashi Noboru

●医学博士。東京大学名誉教授。国立小児病院名誉院長。1927年東京生まれ。1954年東京大学医学部卒業。国際小児科学会会長、国立小児病院医療センター初代センター長、国立小児病院院長などを歴任。現在は、チャイルド・リサーチ・ネット所長、ベネッセ次世代育成研究所所長、日本子ども学会理事長などを務める。

日本代表

小林 登

(東アジア子ども学交流プログラム日本代表、CRN所長)

2012年9月22日、23日の2日間にわたり、台北市で東アジア子ども学交流プログラムが開かれた。台湾は、私個人としては、東京大学小児科在任中にたくさんの留学生を迎えたこともあり、1972年以来少なくとも5回は訪問している。しかし、「東アジア子ども学交流プログラム」としては、初めてだ。中国では、このプログラムの目標とするものがうまく受け入れられて、既に5回も開かれていることはご存じの通りである。嬉しいことに、今回のプログラムでは、台湾でも我々の考える「子ども学」“Child Science”の考え方が受け入れられているように強く感じた。この機会に、今後の発展を目指して、更に努力する所存である。

「子ども学」という考え方は、子どもに関係する専門家たちがそれぞれ学んだ自然科学や人文・社会科学の枠を超えて、子どもに関係する専門科学を勉強している研究者ばかりでなく、いろいろな立場で子どもと関わっている実践家も一堂に会して、問題発生の予防や、問題が発生してしまった場合の解決について話し合うのに役立つ考え方であると信じる。外国の地で開かれた会議では、社会や文化の違いも加わるので、学際的な話し合いの意義はさらに大きくなると思われる。

台北で開かれた「東アジア子ども学交流プログラム」は「学び」と「遊び」を、いろいろな立場から考える良い機会になったことは間違いないと思う。台湾の先生方の発表は、特に関心を呼ぶものであった。21世紀こそ、子どもの世紀とすべく、皆さんと一緒に考え、今後とも共に実践してゆこうではないか。

Zhu Jiexiong



ごあいさつ

2012
Child Science
Exchange Program
in East Asia

Zhu Jiexiong

●華東師範大学名誉教授、中国教育学会常務理事・学術委員、中国教育学会学前教育研究センターセンター長・主席フェロー、環太平洋地区学前教育研究会 (PECERA) 常任理事、『Early Years』など6つあまりの国際学術雑誌の編集委員を務めている。

中国代表

朱 家雄

(華東師範大学名誉教授、東アジア子ども学交流プログラム中国代表)

東アジア子ども学交流プログラムが始まってから6年目である2012年に、この学術研究討論活動は初めて日本や中国大陸以外の場所である台湾で行われた。

台湾の国立台北教育大学で行われた今回のプログラムのテーマは、子ども学の視点から「遊び」と「学び」を考えること。「遊び」と「学び」は古くからのテーマで、幼児の発達や保育、教育の基礎となるような意味をもつと共に、新しい意味を豊かに内包するテーマでもある。「子ども学の視点から」とは、いろいろな角度から問題を見ていくことを意味している。「子ども学の視点から『遊び』と『学び』を考える」とは、子どもに関する様々な研究分野から「遊び」と「学び」を分析し、ときにはぶつかり合い、対話し、そこからまたさらに考えを深めて共通の理解を作り上げていくことを意味している。

今回のプログラムでは、日本や中国大陸、台湾からのたくさんの学者、専門家がそれぞれ医学、神経科学、教育学、心理学、玩具設計の工学、情報工学といった角度から深い見解を易しく解説し、新たな考え方を提供してくださった。

この6年の間、東アジア子ども学交流プログラムの中国側代表を務めてきた私は、「子ども学」を推し進め、広めていくことの意義を強く感じてきた。というのは、そうすることで、子どもに関する仕事に携わる方々の視野を広げ、創造的思考を促すことができるし、そこから子どもに関わる実践に役立てることができるからである。この6年間、私は小林登教授や教授が率いる皆さんからたくさんのことを学んだ。「子ども学」を推し進め普及させようという強い思いや、全身全霊で子どものために尽くそうという愛情に満ちたご活動などもそのうちの一つである。

page

表2

ごあいさつ

1

ごあいさつ

2

目次

第一章

3

東アジアにおける「遊び」と「学び」の現状と課題

子ども問題を予防し、解決するには —— 「子ども学」のすすめ
小林 登

子どもは遊ぶのか、それとも遊ばされるのか
朱 家雄

幼児教育現場ではどう教えるか？ どう遊ぶか？ —— 台湾と日本の幼児教育観を比較する
翁 麗芳・塘 利枝子

教育におけるマルチモーダルなコンピュータを用いたインタラクティブな学習デザイン
范 丙林

第二章

23

医学から見た子どもの遊びと発達

子どもの発達における遊びとおもちゃの意味
榊原 洋一

医学的観点から見た就学前の親子の「遊び」と児童発達
郭 煌宗

第三章

37

おもちゃと子どもの発達

子どものおもちゃと遊び
多田 千尋

玩具から「学具」へ、教育から「楽育」へ
—— 子どもの「遊び」の研究と応用
張 世宗

51

公開シンポジウム